

## 南区地域福祉アクションプラン推進委員会 分科会開催状況

		第 1 回	第 2 回
分野	障がい者福祉	7月29日（火）午後7時～ 白根健康福祉センター第2研修室 委員8名・事務局5名出席	8月26日（火）午後6時～ 白根健康福祉センター第2研修室 委員9名・事務局5名出席
	高齢者福祉・ 介護者支援	7月31日（木）午前9時30分～ 南区役所1階会議室 委員9名・事務局4名出席	8月28日（木）午前9時30分～ 南区役所1階会議室 委員11名・事務局4名出席
	児童・ 子育て支援	7月29日（火）午後2時～ 南区役所4階第1会議室 委員10名・事務局4名出席	8月19日（火）午後2時～ 南区役所4階第1会議室 委員9名・事務局5名出席
内容		現計画の振り返り，現状把握，新たな課題等の抽出	課題解決策の検討

# 南区地域福祉アクションプラン推進委員会 福祉分野別分科会委員名簿

(敬称略・順不同)

分野		委員氏名	団体名	
障がい者福祉	1	阿部 一久	南区身体障害者福祉協会	
	2	渋川 博子	南区肢体不自由児者父母の会	
	3	柳 博明	南区ボランティア連絡協議会	
	4	中野 裕子	公募委員(ふれジョブみなSUN)	
	5	田中 吉平	庄瀬コミ協(民生委員)	
	6	宮崎 幸一	鷺巻コミ協(保健福祉部会長)	
	7	佐藤 里香	相談支援センターあると	外部
	8	小野島 徹	白根南部地区民児協障がい者福祉部会連絡員	外部
高齢者福祉・ 介護支援	1	大竹 弘	南区老人クラブ連合会	
	2	知野 美智子	南区連合保健会	
	3	関根 定一	茨曾根コミ協(地区社会福祉協議会)	
	4	渡邊 喜夫	大通コミ協(健康福祉部会評議委員)	
	5	尾竹 勝衛	小林コミ協(健康福祉部会長)	
	6	田辺 文明	月瀉コミ協(保健福祉部会副部長)	
	7	横山 勝	根岸コミ協(民生委員)	
	8	武田 聡子	居宅介護支援事業所うすい	外部
	9	小山 弓子	地域包括支援センターあじかた	外部
	10	野澤 正榮	月瀉地区民児協高齢者福祉部会連絡員	外部
児童・子育て支援	1	坪井 和之	南区民生委員児童委員会連絡会	
	2	大野 朗子	臼井コミ協(副会長)	
	3	関屋 笑美子	白根コミ協(健康福祉部会委員)	
	4	遠藤 雪恵	大郷コミ協(民生委員)	
	5	塩原 信子	新飯田コミ協(保健会元会長)	
	6	笠井 昭男	味方コミ協(老人クラブ地区協議会長)	
	7	金子 美和子	白根児童センター長	外部
	8	高成田 里菜	子育て当事者	外部
	9	長谷川 仁美	子育て当事者	外部
	10	山田 ひろ子	味方地区民児協青少年・児童部会連絡員	外部

※ 田中清彦推進委員長には、ご都合のつく限りで各分科会への出席を依頼

南区地域福祉アクションプラン推進委員会

第1回 障がい者福祉 分科会経過報告

1 現計画の振り返りについて

計画／目標	委員意見等
福祉分野別地域福祉活動計画「障がいのある人が地域参加できるまち」	
1 相談しやすい体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談体制は充実してきたと感じる。事業所や福祉団体の交流を通して情報交換ができています。</li> <li>・事業所としての周知が不足していた。</li> <li>・事業所間の連携がとれていない。(ちょっとした相談でも区内の事業所で受けられるものもある。)</li> <li>・いま通学している生徒は、学校から相談できる情報を教えられているが、以前卒業した障がい者や在宅でサービスを利用している者は、相談できる情報をもっていない。</li> </ul> <p>今後の取り組みについて 継続</p>
2 障がいのある人と地域の人々との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉団体では昼食会などで交流を持つことはあっても地域の中では交流はない。</li> <li>・ぷれジョブでは一般企業などとの交流はある。</li> <li>・この推進委員会でコーヒーのサービスがあったので、わいわいカフェの事業について知ることができたが、この事業を発展させるには食材を障がい者が仕入れに行くことで農家などとの交流ができる。</li> <li>・月瀉地区では「梨の里（精神障がい関係施設）」利用者が近くの果樹農家で手伝いをすることで交流しているし、移動販売車と一緒に販売をしながら地域と交流している。</li> <li>・イベントなどに「出張わいわいカフェ」ができないか。待っているだけでなく出向く姿勢が必要</li> <li>・イベント会場での手話ができるコミュニケーション手段が必要</li> <li>・知的障がい児の育った地域では周囲の子ども達は受け入れていたが、世間に出ると奇異の目で見られた。また、一般のサークルには入れなかったが、入れておけば理解にされたのかも</li> <li>・世間では意外と知的障がいを奇異として見ていないが、案外家族が心配している場合がある。</li> </ul> <p>今後の取り組みについて 継続</p>
3 わかりやすい福祉情報マップづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から…この事業は来年度完成予定のため継続になる。</li> <li>・マップ作りの情報を収集しているが、いろいろと問題が生じている。行政に相談したい。</li> <li>・地域福祉計画作成時にマップ作りの共同製作の話が行政からされたが、その後その話は途絶えている。</li> </ul> <p>今後の取り組みについて 継続</p>

<p>4 障がい者団体の交流活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家の高齢化に伴う後継者不足と障がい者の雇用をむすびつけられないか。</li> <li>・保育園では収穫の喜びを知る体験事業を行っている。</li> <li>・国が第6次産業の推進を掲げているので、生産から製品化まで資金の調達も考えられるのかも。ただし安心安全管理など課題もあるので行政の協力が必要</li> </ul> <p>今後の取り組みについて 継続</p>
<p>地域福祉計画「障がいのある人の自立支援」</p>	
<p>●福祉サービス利用の相談支援体制充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援事業者は平成26年度末までに（無理だと思うが）全利用者のサービス利用等計画を作成しなければならない。</li> <li>・基本的な相談を大切にしたい。</li> <li>・事業所は法人なので経営ができなければ新規参入できない。市から補助があればいい。</li> <li>・民生委員として相談を受けたが、区役所の窓口せざるを得なかった。制度は知っているが相談窓口がわからなかった。</li> <li>・行政の相談窓口到手話通訳の拡充</li> </ul> <p>今後の取り組みについて 継続</p>
<p>●心の健康づくりとボランティアの育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生時代にボランティアに参加していた人が社会人になってからがつかない。</li> <li>・大型店に手話通訳があれば良い。</li> <li>・福祉施設や利用者は常に新鮮さを求めている。ボランティアの訪問を待っている。</li> </ul> <p>今後の取り組みについて 継続</p>
<p>●障がい者団体情報の地域発信と地域との交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の回覧版の配布をお願いできたのは地元と実家の自治会だけだった。地域とのつながりが無いと発信できない。努力が大事なのかな</li> <li>・情報発信は文書が良い。</li> <li>・クリスマス会などもっと宣伝した方が良い。JAは会員、準会員に事業の予告を配布している。（その裏面には地域の情報が記載されている。）</li> <li>・通勤通学バスの広告掲載に情報スペースを設置できないか。広告料がかかるなら区バスではどうか。（モデル事業として）</li> </ul> <p>今後の取り組みについて 継続</p>
<p>●生活課題の早期発見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から…地域自立支援者協議会で処遇困難ケースや地域課題を協議している。</li> <li>・民生委員としては「付かず離れず困った時は家族以上に」で積極的に特定者に入れない。</li> </ul> <p>今後の取り組みについて 継続</p>

## 2 1以外についての発言等

- ・知的障がいの医療機関（はまぐみ，県立吉田病院）が遠い，予約が何カ月先になる。
- ・特別支援高等学校は市内に2校しかなく南区からは巻まで通学しなければならないが，知的障がいのため公共交通機関は複雑すぎて利用できないため保護者がバスの借り上げやヘルパーの雇い入れを負担している。

南区地域福祉アクションプラン推進委員会  
第1回 高齢者福祉・介護者支援 分科会経過報告

1 現計画の振り返りについて

計画／目標	委員意見等
福祉分野別地域福祉活動計画「お年寄りが生きがいをもてるまち」	
1 高齢者の閉じこもりや孤立を防ぐ	<p>◎高齢者の閉じこもり防止に、お茶の間のような地域に出る場所が大切な働きをはたしており、継続の取組が必要</p> <p>課題としては、男性の参加が少ないこと、開設当時の参加者が高齢化してやめていく中で参加者の維持、また支えるボランティアの確保、開設運営のためのリーダー確保。参加しない原因としては、世代間の価値観相違、仕事・農作業による多忙、敬老会にはまだ入れないという声がかかる。また、要支援・介護、障がいのある方、子供等、だれでも来られる場も望まれる。課題を見直ししつつ継続が必要。</p>
2 介護者を支えあう地域	<p>◎介護者を地域で支えあうことは、今後さらに重要になると思われ、継続の取組が必要。</p> <p>介護者のための教室は多く開催されているが、周知不足もあり、参加者の少ない点が課題。また、開催団体ごとの連携がないために開催日に重なりがみられること、区域が広いため居住地によっては参加が難しいこと等から、必要な介護者に支援が行き届かない可能性あり。同居世帯の減少や、子供の世話になるのを好まない風潮、男性介護者では未経験の家事も負担となり得ることも考慮が必要。</p>
3 認知症の理解を深める	<p>◎認知症の理解を深めることは、今後も拡充して継続。また、認知症といえる地域づくりも大切。</p> <p>認知症についての説明機会が茶の間等となっており、対象者が高齢者に偏りがちである。40～60代にも説明機会を設け包括支援センター等について知識をつけてもらうこと、子供にも地域で触れ合う機会を作ることが必要。認知症サポーター終了者の地域での活躍方法やセーフティネットの作成も今後の検討課題。また、認知症の方を家庭に閉じ込めると悪化がみられること、地域に予め周知されていると保護しやすいことから、認知症といえる地域づくりが必要とされる。</p>
4 老人クラブの活性化	<p>◎男女とも多くの加入を推進するという点においては、現状では達成できていないが、老人クラブへの加入により社会参加でき、健康寿命の延伸等に効果があることから、今後も継続が必要。</p> <p>「地域福祉計画 老人クラブへの参加促進」と統合予定</p> <p>音頭を取る人がいなく、地域で集まる機会も減ってきている現状。</p>

地域福祉計画「お年寄りと介護者の生活支援」

<p>●情報の共有とネットワークづくり</p>	<p>◎ネットワーク作りに引き続き取り組む。包括支援センターの活動について、必要な年代への情報周知が必要。 包括で高齢者ケア会議を開催し、問題点は区の地域ケア会議に挙げ区全体として取り組むよう前進中。役員以外の地域の方へ包括支援センターの周知が不十分であり、必要な年代に活動が知られていない現状があるため取り組みが必要。地域によっては、総会等の集会前に説明会を開催し周知を図っている。</p>
<p>●高齢者の健康管理と介護予防の推進</p>	<p>◎高齢者の健康づくりに継続して取り組む。 市内他区と比較し、高齢者の特定健診、後期高齢者の健診受診率が最低、運動習慣も最少となっているため、検診受診率を高め健康管理につなげることが必要である。地域でのウォーキングイベントや区での健康づくり講座が行われているが、イベント等を行いながらも日常生活の中で継続できる運動習慣の習得が健康寿命を延ばすために必要となっている。</p>
<p>●認知症予防と対策</p>	<p>◎「活動計画3 認知症の理解を深める」と同内容。現状についても同様。</p>
<p>●地区保健会活動の推進</p>	<p>◎保健会の存続は今後も必要であり、活動内容を整理し継続して取り組む。 会費は納めるが委員を出さない自治会があり、保健推進員の減少が課題となっており、自治会、コミ協と連携した活動が必要。また、南区の運動習慣、喫煙、飲酒状況を市内比較すると生活習慣病の増加が危惧され、取り組みが必要とされる。 「福祉計画 高齢者の健康管理と介護予防の推進」と次回目標制定時に絡められるか検討。</p>
<p>●世代間交流事業の推進</p>	<p>◎世代間交流事業は、高齢者と子供のみではなく中間世代も含め継続が必要。 地域により頻度に違いがあるが、茶の間や敬老会で子供たちと交流が行われ、地域の祭りも世代間交流の場となっている。中間世代との交流機会が少ない傾向にある。</p>
<p>●老人クラブへの参加促進</p>	<p>◎「活動計画4 老人クラブの活性化」と統合させ継続が必要。 参加者が減少している中、会員以外も参加可能なイベントを設ける等の勧誘方法の工夫、活性化させるためのリーダーの存在が必要。</p>

## 2 1以外についての発言等

現計画には未記載の新たな課題。

### ◎高齢者の見守り

一人暮らし等の高齢者が急に体調を崩した場合等に備え、近所での支援方法検討が必要となっている。例として、近所でのゴミだし支援。

### ◎公共交通機関が発達していない

公共交通機関がないため自家用車に乗れない場合、買い物、行事参加等に不便であり、活動範囲が制限されてしまう。

南区地域福祉アクションプラン推進委員会  
第1回 児童・子育て支援 分科会経過報告

1 現計画の振り返りについて

計画／目標	委員意見等
<b>福祉分野別地域福祉活動計画「安心して子育てできるまち」</b>	
1 子育て世帯が孤立しないまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童館や支援センターに育児情報（チラシ・パンフレット等）があっても、子どもに気を取られて見る余裕がない。</li> <li>・児童館等に来たくても来られないお母さんもいる。（性格的／地理的問題）</li> <li>・サークルなどに入っていないと情報が入りにくい。口コミは重要。</li> </ul>
2 ゆとりをもって子育てができるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリーサポートセンターの存在を必要に迫られて初めて知った。使う機会がない人には知名度が低い。PR方法に工夫が必要。</li> </ul>
3 地域ぐるみで子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区で料理教室を実施している。多世代交流イベントはもっと充実させるべき。お互いの顔が見える場面を増やしたい。</li> <li>・保育付きのイベントは参加しやすい。短時間でも子どもと離れてゆっくりしたい。←保育者を用意するにも謝礼金がかかる。</li> <li>・結婚で地区外から移ってくるお母さんが多く、忙しいのか集まりに続けて参加してもらえない。</li> <li>・老人クラブが小学校と合同で輪投げ大会を開催。また、作品展に保育園児からも参加してもらった。</li> <li>・普段、地域のお年寄りと会う機会がない。行事などで顔を覚えたい。←地域の茶の間で子どもと交流しているところがある。お互いの顔が分かれば声もかけやすくなる。</li> <li>・地域の子ども会に保護者以外の大人がかかわるのはよい。</li> <li>・お年寄りの知識・技術を若いお母さんに伝えたい。</li> </ul>
<b>地域福祉計画「子どもの健やかな育ちと子育て支援」</b>	
●子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年未満で復職するお母さんが多いが、年度途中での保育園入園が難しい。園によっては未満児が満員状態。</li> <li>・希望の保育園に入れず、就労を諦めたという話を聞く。</li> <li>・児童館、子育て支援センターなど、それぞれの施設がどんなところなのか行ってみないと分からない。</li> <li>・園開放は日数が限られ、都合が合わないと行けない。もっと頻繁にあれば。</li> <li>・児童館は小中学生と共存するため、お互い気を遣う。</li> <li>・幼稚園が区内に1か所しかなく、他区の園を探さなければならない。</li> </ul>

<p>●子育て応援ボランティアの育成と親のニーズ</p>	<p>・「子育てオーエンジャーみなみ」ががんばっている。メンバーの研修・スキルアップが今後も必要で、区づくり予算終了後も継続して支援してほしい。←地区によってはコミ協事業として継続。</p>
<p>●子育て情報の発信</p>	<p>・スーパーマーケット，銀行等，どのお母さんも必ず行くところで情報提供したらどうか。</p> <p>・インターネットの情報は，何か目的がないと積極的には見ない。</p>

## 2 1以外についての発言等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の通学手段が不便で，志望校が限られてしまう。</li> <li>・小中学校の通学バスも夏場は低学年しか乗れない。支援してほしい。</li> <li>・学校関係の視点が足りない。</li> <li>・スーパー，銀行が区の中心部にしかない。どこに買い物に行けばいいのか。</li> <li>・夏は暑くて公園で誰も遊んでいない。日陰を作してほしい。</li> </ul>
---